



# JSQC ニュース

No.266

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 国際的に認知された日本発の質マネジメントシステムモデル
- 2-私の提言 “動機づけ理論”を意識したTQM活動にしよう
- 2-研究会だより 環境マネジメントシステム研究会報告
- 3-第97回講演会ルポ / 新規研究会募集 / 12月の入会者紹介 / 論文募集
- 4-行事案内 / 訂正

## 国際的に認知された日本発の質マネジメントシステムモデル ~ JIS Q 9005/9006 ~

東京大学 飯塚 悦功

2005年12月20日、質マネジメントシステムに関する以下の2つの日本工業規格(JIS)が制定された。

JIS Q 9005 質マネジメントシステム  
- 持続可能な成長の指針

JIS Q 9006 質マネジメントシステム  
- 自己評価の指針

これらについて解説する。

### 新QMSモデルのJIS発行

JIS Q 9005は、学習及び革新を通じて持続可能な成長を実現するために、顧客に提供する製品・サービスの質の改善・革新を図る質マネジメントシステム(QMS)を自律的に構築するための指針であり、JIS Q 9006はQMSの改善・革新の方法として位置付けられる自己評価の方法を定めた指針である。

JIS Q 9005は、わが国の中堅企業の競争力向上に資する、時代に即したQMSモデルを提示していることに加え、国際的にも、ISO 9004の2008年改訂における重要な文書と位置付けられているという意味でも注目される。

### TQM標準化ニーズへの対応

JIS Q 9005/9006開発の着手は1999年に遡る。日本規格協会にTQM標準化調査研究委員会(前田又兵衛委員長)が設置され、端的に言えば、TQMの標準化に対するニーズを調査した。この結果、時代が求めるQMSモデルの標準化ニーズが明らかとなり、引き続き、産業界に提示すべきQMSモデル

の研究を行った。目処がついたところで、このモデルをJISにすることを視野に入れ、品質マネジメントシステム規格委員会(高橋朗委員長)を設置し検討を行い、2003年1月に、2つのTR(標準報告書)を発行した。今回発行されたJISは、これら2つのTRを改正しJISに格上げするものである。

### JIS Q 9005/9006の基本概念

JIS Q 9005/9006の基本概念のうち最も重要なものは「持続可能な成長」である。長生き組織が良い組織であるという価値観のもと、長生きであるためには組織及び個人の学習能力を高め、革新を可能とする組織運営により変化に対応することの重要性を説いている。

またQMSは、ただ漠然と構築すべきものでなく、事業戦略を実現するために最適なQMSを考察して設計・構築すべきであるとしている。このために「組織能力像」という重要な概念を提示している。組織能力像とは、製品・サービスを通じた顧客価値提供のために組織が保有すべき能力のうちで、組織の特徴を踏まえた競争優位要因の視点から、重要な能力として抽出され、明確にされた、組織のあるべき姿としての能力像のことである。これを明確にすることにより、どのような能力をどのQMSの要素に実装すればよいかを適切に考察することができる。

さらに、新たな時代に求められる質

マネジメントの原則として、現在のISO 9000の8原則に、社会的価値重視、コアコンピタンスの認識、組織及び個人の学習、俊敏性、自律性を加えた12の原則を提示している。

自己評価の指針JIS Q 9006は、通常の自己評価とは全く異なる方法を提示している。すなわち、自己評価の目的を、組織が自らを洞察しQMSの革新の必要性を判断し自らを変える判断材料を得るためとし、自ら評価基準を定める評価法を提示している。組織能力像により重視すべきQMS要素が明らかにされているが、これを基礎に自ら評価基準を定めて現状を評価する。

### 自律的QMS構築のすすめ

TQC、TQMは、品質立国日本を可能にしたわが国が誇るべき品質管理のモデルであった。時代が変わり品質及び品質管理の求心力が低下するなか、組織の競争力の構成要因としての品質の意義を考察すれば、これまでの品質論を基盤としつつ、時代の要請に応える質マネジメントシステムモデルが必要なことは明らかである。

JIS Q 9005/9006は、組織能力像の明確化により、組織に必要な指針のみに焦点を当てるように促す指針であり、ポストISO 9004:2000をねらうばかりでなく、競争力の視点で質を再考することにより品質立国日本の再生をめざし、何よりも「自律せよ」との強いメッセージを発するJISでもある。

## 私の提言

# “動機づけ理論”を意識したTQM活動にしよう

朝日大学 教授 國澤 英雄



TQM活動で大切にしていることは、各自が持っている能力を出しあい、一致団結し企業目標を達成することであり、しかしこのような

全員参加が大切だとわかっている、問題は「皆が業務への高い意欲を持ってくれるか」であります。

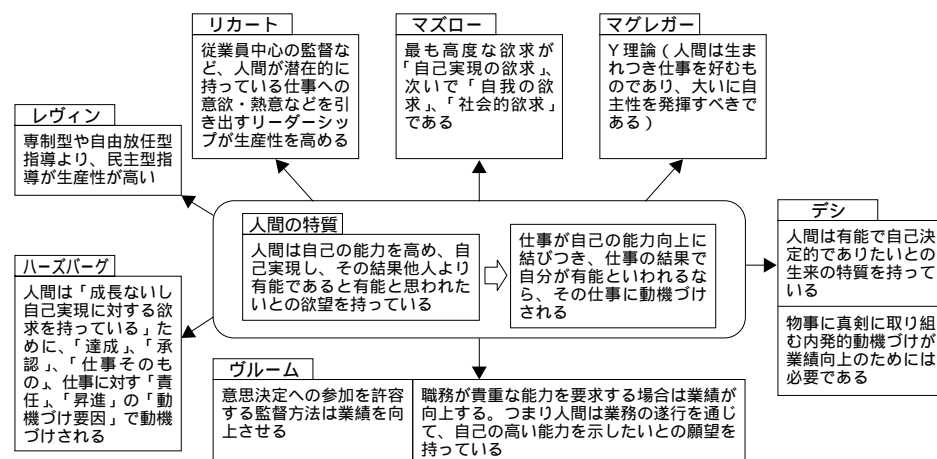
従来からの「動機づけ理論」は、「人間は自己の能力を高め、自己実現し、その結果他人より有能と思われたいという生来の欲望を持っている」という哲学的思考に集約できそうです（右図参照）。つまり、人間は「自分の仕事を通じて自己成長を図るととも

に、能力の高さを多くの人に認めてもらいたい」という本性を持っている訳です。このことを実際の職場で考えてみるなら、「その仕事をするのが、いかに能力向上に結びつくかを理解してもらい、そして得た仕事の成果や、携わった人の能力の高さをアピールする場を作るなどの一連

の仕組み」が、勤労意欲の高い職場を作るということになります。

TQM活動では、問題解決の進め方やSQC手法を使って、困難な課題を解決し、その成果を発表するなどのやり方の普及を積極的に進めてまいりました。このようなTQM活動は、「動機づけ理論」に沿ったものと言えますが、TQM活動を一層効果的な活動にするためには、これらの「動機づけ理論」を意識したメリハリのある活動が必要と思われます。

（参考：『勤労意欲の科学＝活力と生産性の高い職場の実現』成文堂，3月刊行）



## 研究会 だより

## 環境マネジメントシステム研究会

# - 環境マネジメントシステム研究会報告 -

環境マネジメントシステム研究会は平成15年に設置され、途中で中断があったが、本年3月に終了の見込みである。前半は招待講演者による講演と研究会メンバーによるフリーディスカッションを中心に進めてきた。なお、講演は(財)日本適合性認定協会・大坪孝至氏、(社)産業環境管理協会・中山哲男氏、ピーエスアイジャパン(株)西利道氏、井上正昭氏をお願いした。

フリーディスカッションでは環境マネジメントシステムの有効性とは何かという問題を中心に多方面の環境問題について議論した。また、会員メンバーから環境マネジメントシステムに関連する①自動車の環境対策について、②環境対応商品の市場性について、③グリーンサービスサイジングについて、などの報告を受け、それについても議論をおこなった。なお、この内のグリーンサービスサイジングについては、昨年秋の学会にメンバーの長沢氏より報告済みである。

今年度には会員向けにアンケート調査を実施し、近くその成果をまとめる予定である。環境マネジメントシステムについてのアンケート調査は適合性認定協会(JAB)により毎年実施されており、調査内容の重複を避けるため、質問項目の調整等を実施した。アンケートは日本品質管理学会のメンバー宛に発送した。回答結果の速報はすでに研究会で報告をしたが、詳細は春の学会で報告する予定である。この結果、消費財メーカー、生産財メーカー、サービス業の順に環境が大切であるという意識が高いことがわかったが、ISO14001登録維持活動や認証登録に向けた活動などが大切であるという意識は生産財メーカー、消費財メーカー、サービス業の順であった。

この研究会の研究期間も残り少なくなったが、研究会メンバーの報告も含めて、研究報告をまとめる予定である。

岡本 眞一(東京情報大学)

## 新春(第97回) 講演会 ルポ

### 「日本の製造業の国内回帰」

1月26日、寒さの少し緩んだなか、新春(第97回)講演会が日本科学未来館(東京)にて開催された。約100名が参加し、標記のテーマで2つの講演が行われた。

#### 【講演1】「サンデンの国内外でのものづくり改革」

サンデン(株)代表取締役副会長 天田清之助氏  
自動車機器(カーエアコン等)、流通システム(店舗システム、自販機)、住環境機器で知られる同社は、海外23ヶ国、50拠点で生産・販売活動を展開している。お客様の近くで、協業(研究開発、モノづくり、品質を作り込む)するグローバル先進企業である。

一方、国内では赤城事業所を立ち上げ、他の事業所とともに店舗システム、自販機、住環境機器に力を入れ、海外生産が主力の自動車機器とバランスを取っている。また、品質経営の推進(STQM活動)では、全世界を統一したISO、TPM、TQM活動を展開、各賞へ

チャレンジしている。その成果もご紹介いただいた。

#### 【講演2】「レクサスの開発について～レクサスブランドの再構築～」

トヨタ自動車(株)常務役員レクサスセンター長 吉田 健氏  
16年前に米国で生まれた「レクサス」ブランドを刷新し、2005年8月から日本で販売を開始した。

レクサスでは世界最高の価値を提供するため絶対条件を設定しており、「レクサスマSTs」という。性能・品質基準から乗り心地など500項目を策定し、ばらつきを管理している。重要な点は、「レクサス」と「トヨタ」のブランドを峻別して、先々「トヨタブランド」を「レクサスブランド」へ引き上げることである。もう一段上の品質・価値を生み出し、他社と差別化をし、お客様へ最高の価値を提供するというレクサス哲学をお話しいただいた。

双方とも、新たなグローバル展開を見据えて国内との連携をとるという元気の出るご講演であり、活発な質疑もなされて盛況であった。

青木 一男(日本科学技術連盟)

## 新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。とくに若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2006年10月～2007年9月(1年間)

申請方法：「新規研究会設置申請書」(様式204-1)をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。  
[http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai\\_shinki.html](http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html)

申込締切：2006年4月24日(月)必着

#### 研究会の申請と運営：

研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者(学界・産業界)を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。

研究目的と年間の研究活動計画を作成する。

1研究会のメンバーは20人まで。

会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室。

時間は18時～20時。ただし会場の都合がつけば午後でも可。食事支給。

研究会運営費は一人1回当たり1150円(内訳：通信費・資料代・食事代)ただし年間開催数は11回を限度とする。

## 「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

## 2005年12月の 入会者紹介

2005年12月12日の理事会において、下記の通り正会員16名、賛助会員1社の入会が承認されました。

(正会員16名) 尾形 守章(りそな総合研究所) 長嶋 俊雄(竹中工務店) 米本 良行(日産自動車) 長坂 康史(広島工業大学) 竹中 健二・岩崎 充博・香川 隆男・松山 立(豊田自動織機) 近藤 宏(三菱電機) 高木 美作恵(シャープ) 石田 繁夫(ジャトコ) 丹治 弘典(清水建設) 須釜 なつみ(墨東病院) 洪 玉倩(紀伊國屋書店) 片穂野 尚美(ピーエスアイジャパン) 山下 政嗣(富士ゼロックス)

(賛助会員1社1口) 東北リコー

正会員：2931名

準会員：141名

賛助会員：171社198口

公共会員：22口

## 行 事 案 内

## 第106回シンポジウム(関西)

テーマ:ものづくりにおける技術の伝承と人材育成

日時:2006年2月24日(金)13:00~17:00

会場:大阪市立総合生涯学習センター  
5階 第1研修室(ホール)

プログラム:

講演1「ものづくりにおける技術の伝承と人材育成」

岩崎日出男氏(近畿大学)

講演2「ものづくりにおける革新的人材育成」

奥林康司氏(摂南大学)

講演3「世界に通用する技術者を育てる」

光富敏夫氏(ラーニング・インターナショナル)

講演4「航空機整備技術の伝承と人材育成」

定近士郎氏(全日本空輸(株))

参加費:会 員3,000円 非会員4,000円

準会員1,500円 一般学生2,000円

申込方法:会 員No.・氏名・勤務先・所属・連絡先を明記の上、関西支部事務局までE-mailにてお申し込みください。

kansai@jsqc.org

## 第51回クオリティパブ(本部)

テーマ:サントリー緑茶「伊右衛門」の開発 - 沢山の失敗とほんの少しの成功 -

ゲスト:齋藤 和弘氏(サントリー(株)食品事業部副事業部長)

日時:2006年2月27日(月)18:00~20:30

会場:日本科学技術連盟  
東高円寺ビル5階研修室

定 員:30名

参加費:会 員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

詳細:ホームページをご覧ください。

申込方法:本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

## 第107回シンポジウム(本部)

テーマ:最近の小集団活動の動向と人材育成

日時:2006年3月8日(水)9:55~17:00

会場:早稲田大学 理工学部

## 訂 正

JSQCニュース'05年12月号1ページ、QFD国際会議のルボ中、主催国のトルコで活躍された博士のスペルに間違いがありました。以下に訂正いたします。

(誤) Faith Renginol 博士

(正) Fatih Yenginol 博士

57号館201号室

プログラム:

基調講演「小集団活動と人づくり - 職場特性に応じた小集団活動の推進 -」

中條武志氏(中央大学)

特別講演「やる気をはぐくむマネジメント」

菊入みゆき氏(モチベーション・コンサルタント)

事例紹介1「小集団活動を活用した自己増殖型での現場力の向上」

杉浦 忠氏(マネジメントウォルテックス)

事例紹介2「QCサークル京浜地区における小集団活動の進化と前田建設における改善活動強化への取り組み」

前田操治氏(前田建設工業(株))

事例紹介3「ジーシーにおける小集団活動の動向と人材育成(仮題)」

毛利哲明氏(株ジーシー)

定 員:300名

参加費:会 員5,000円(締切後5,500円)

非会員7,000円(締切後7,500円)

準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切:2006年3月1日(水)

申込方法:ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

## 第312回事業所見学会(本部)

テーマ:地球環境を守る最新鋭処理施設「東京臨海エコ・プラント」

日時:2006年3月17日(金)午後

見学先:高俊興業(株)

東京臨海エコ・プラント

定 員:30名(会員優先)

参加費:会 員2,500円 非会員3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

当日払い

申込締切:3月15日(水)到着分

申込方法:本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

詳細はホームページをご覧ください。

医療のための質マネジメント基礎講座

(医療の質・安全部会)

- 月1回一日2回、計6回開催 -

会場:日本科学技術連盟

千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂

プログラム:

第1回 4月22日(土) 9:30~12:30

「医療の質用語辞典」を読み解く

担当:棟近雅彦氏(早稲田大学)

第2回 4月22日(土) 13:30~16:30

PCAPSの基本

担当:水流聡子氏(東京大学)

第3回 5月21日(日) 9:30~12:30

プロセス指向を实践する事故分析

手法 POAM

担当:棟近雅彦氏

第4回 5月21日(日) 13:30~16:30

医療におけるQMS入門

担当:永井庸次氏(日立製作所水戸総合病院)・棟近雅彦氏

第5回 6月24日(土) 9:30~12:30

医療のためのエラーブルーフ入門

担当:中條武志氏(中央大学)

第6回 6月24日(土) 13:30~16:30

KYT(危険予知トレーニング)と5S

担当:福丸典芳氏(榎福丸マネジメントテクノ)

定 員:150名

参加費:すべてテキスト代込

(各回)

部会員4,000円 非会員15,000円

非部会員の正会員6,000円

(6回一括申込)

部会員20,000円 非会員75,000円

非部会員の正会員30,000円

申込方法:部会事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

E-mail: [secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp](mailto:secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp)

部会事務局 加藤、永松

FAX: 03-3232-9780

TEL: 03-5286-3304

(早稲田大学理工学部経営システム工学科 棟近研究室)

## 第80回研究発表会(本部)発表募集

日時:2006年5月26日(金)・27日(土)

会場:日本科学技術連盟

千駄ヶ谷本部

(1)申込期限

発表申込締切:3月31日(金)

予稿原稿締切:4月28日(金)必着

参加申込締切:5月16日(月)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

12月に送付した発表申込要領をご覧ください。ホームページでもご案内しています。

(3)参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

## 行事申込先

本 部: TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: [apply@jsqc.org](mailto:apply@jsqc.org)

事務局携帯: 090-9128-7979

関西支部: TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: [kansai@jsqc.org](mailto:kansai@jsqc.org)